

Title	キャリア・デベロプメント・プログラムの実証的研究
Sub Title	
Author	岡野吉孝(Okano, Yoshitaka) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0189

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 岡野吉孝 主査 石田英夫
(モービル石油株式会社) 副査 奥村昭博
田中 滋
所属ゼミナール 石田英夫 研

キャリア・デベロップメント・プログラムの実証的研究

「事業は人なり」と言われているように、企業経営にとって、人材はきわめて重要なものである。人材の格差が企業の格差になって表われるといっても過言ではない。

今日のような激動の低経済成長期は、この格差がいっそう顕著に表われる時期で、一つの判断の誤りが高度成長期と比べると、より大きな結果をもたらすと考えられる。

このような状況の中で、企業におけるキャリア・デベロップメント・プログラム (Career Development Program - 長期人材開発制度: 以下CDPと言う) の重要性はますます高まると思われる。

本論文は、そのようなCDPが企業で実際どのように実施されているかについて4社(民族系、外資系企業各2社)の事例研究を行ない、その中から、効果的なCDPを実施するための“カギ”になる点を見出し、CDPを導入しようとしている企業への提言をすることを試みた。

本論文の構成は、理論編(1~2章)、データ編(3章)、結論編(4章)から成り、理論編では歴史的背景を述べ、CDPがなぜ必要なのか、仕組みがどのようなになっているかについて言及した。

データ編では、調査対象企業について事例研究を行ない、それぞれの企業について、CDPの仕組み、今後の課題等について分析、検討した。

結論編では、調査データをもとに、外資系、民族系の比較研究を行ない、“効果的なCDP”のカギになる点として、本人の自覚、トップの理解、部門間及びサブシステム間の連携という3点を見出した。それをもとに企業への提言を行なった。